（2ページから↙）

総務部と

企画部と

■企画部

部要求は1、2、7番の回答をもらい、残りについては2次交渉で話し合う。支部要求については、すべて終了した。

企画部長から「新宮市の差別事件について、不信感と信頼関係を損なうことになり、まずはこの場を借り深くお詫び申し上げる。今回の差別事件は県職員全体の問題であると厳しく受け止め、事件の反省点や課題を十分ふまえつつ、県職員が人権同和行政の担い手であることを自覚して業務にとりくんでいく。東牟婁振興局には厳しく、きっちりとした対応を指示している。」と述べた。

新宮支部からは「この件に関して憤りを感じている。先ほどの総務部長の見解は言葉を選んで答弁していたと思うが、〝差別発言をした人のダークな部分がでた〟ということは差別意識が表面化したこと、このことの見解を文章にして統一した見解をだしてほしい」と要求した。

■警察本部・公安委員会

執行委員会で協議し、2次交渉のなかで問題点を追求する。

主張

# 「推進法」の具体化にむけ、運動をおしすすめよう！

昨年12月に「部落差別解消推進法」が制定されて1年が経過する。この1年間、私たちは「推進法」の普及・啓発にむけとりくみをおしすすめてきた。各支部による学習会の開催、共闘団体、労働組合、宗教界へ要請を実施し「推進法」の学習会の実施を求めてきた。

また、法制定が実現してすぐ県をはじめ各市町村にたいし「推進法」が制定されたことを県民・市民に徹底するため行政のホームページ等に掲載させていくとりくみも実施してきた。

しかしながら、この「推進法」が県民に浸透しているかは疑問が残る。法が制定して1年が経過しても、悪質な差別事件が多発し、インターネット上に差別情報が氾濫している。とくに先月「2017年差別事件報告集会」が和歌山市内でひらかれ、この1年間に発生した差別事件の検証をしてきた。「推進法」の第1条（目的）にも明記されているように『現在も部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って部落差別に対する状況の変化が生じていることを踏まえ・・』と書かれている。まさにそうである。

いま、学校内で部落差別をはじめ、障がい者（児）、外国人への差別事件が多発し、悪質な差別用語が子どもたちのなかで使われている。そして、ネット上に氾濫している差別情報をみて使用し、拡散（シェア）しているのである。一昨年は4月に「障害者差別解消法」が施行され、5月には「ヘイトスピーチ対策法」が、そして12月には「部落差別解消推進法」が成立した。まさに人権の21世紀にふさわしい、人権元年の年であった。

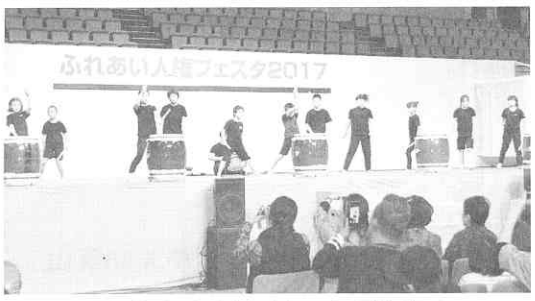
あと数年で全国水平社が創立されて100周年を迎える。「同和対策審議会」答申をふまえた33年間の「同和対策三法」をへて「部落差別解消推進法」の成立を果たしてきた。私たちはこれらのとりくみの成果と問題点を明らかにし、さらなる人権の法制度にむけてとりくみをおしすすめていかなければならない。

# 人権を感じ、知ろう ふれあい人権フェスタ

ふれあい人権フェスタを11月11日、ビッグホエールでひらかれ、6,800人が参加し、さまざまな人権について楽しく学習した。

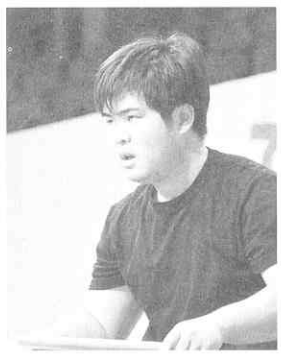
県連からはパネル展示と湯浅支部から太鼓演奏が披ろうされた。今年は、心音メンバーと子どもゆめ基金を活用した太鼓体験教室参加メンバー（小学生）との合同の演奏で、かわいい姿とバチをしっかり握る真剣な表情に多くの参加者がひきつけられた。また、心音は和太鼓ソリストとして活躍している嶋本龍（りょう）さんから指導をうけ、新たな文化の創造をめざして活動しており、新たな和太鼓の風が披ろうされた。

心音のメンバーたち



子どもたちとはく力のある演奏で会場を湧かせた

真剣な表情で太鼓にむかう子どもたち



人びとの心をとりこにする演者たち

# 「推進法」を実行のあるものに、広く討議しよう

## 啓発集会・実行委

和歌山・人権啓発集会のための実行委員会（32団体）が10月24日、和歌山人権研究所でひらかれ、18人が参加した。

はじめに、野口道彦・理事長から「昨年12月に成立した「推進法」でどうすすんでいくのか注視している。そして、研究集会でどう議論すべきか、あらためて実行委員会のみなさんからの意見をだしあい、すすめたい」とあいさつした。

事務局から集会内容が説明され、さまざまな意見がだされた。なかでも、行政参加が少ないので、各支部で要請行動を実施してほしい、集会趣旨に反する人の参加は断るべき、マスコミ懇談会を実施すべき、テーマを具体的に記すべきなど、実施できる項目は次回の集会までに実行することが確認された。

文化の窓

# 「沖縄、基地なき島への道標」

著者：大田昌秀
発行所：集英社、2000年7月22日発行
ISBN4-08-720041-8

10月に東村高江の民間地に米軍のヘリが墜落した。12月には、保育所の屋根に米軍ヘリの部品が落ちていた。4日後には小学校の校庭に、米軍ヘリから窓が落下した。すべて世界一危険な基地といわれる普天間基地の近隣だ。6月に亡くなった前・沖縄県知事の筆者が基地なき沖縄の明るい未来を視野にい入れ、基地存在の不当性を訴えた一冊。私たちは原点に返るべきであろう。

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073－473－2301